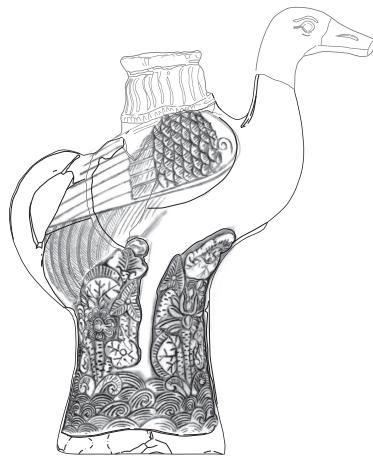


大友府内22

中世大友府内町跡 第97・101次調査

病院建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

【本文・表編】



97-1 SK035 出土華南三彩鶴形水注復元図(1:4)

2016
大分市教育委員会

大友府内22

中世大友府内町跡 第97・101次調査

病院建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

【本文・表編】

2016

大分市教育委員会

巻頭カラー写真 1



中世大友府内町跡及び調査地点全景（平成 25 年 3 月撮影 南上空より）



中世大友府内町跡及び調査地点遠景（平成 25 年 3 月撮影 東上空より）

卷頭カラー写真 2



第 97-1 次調査地区 1 面目完掘状況（平成 24 年 12 月撮影 上が北）



第 97-1 次調査地区 完掘状況（平成 25 年 3 月撮影 上が北）

卷頭カラー写真 3



第 97-1 次調査区 SF100 掘り上げ状況 パノラマ写真（南より）



第 97-1 次調査区 SF100 掘り上げ状況 パノラマ写真（北より）



第 97-1 次調査区 完掘状況（上が北）

卷頭カラー写真 4



第 97-1E 次調査区 SE010 四面仏出土状況（北西より）



第 97-1E 次調査区 SK020 皿・分銅出土状況（北より）

序 文

本書は、病院建設に伴い大分市教育委員会が実施しました中世大友府内町跡第97次・第101次調査の成果を収録した埋蔵文化財発掘調査報告書です。

調査地点は、「府内古図」によると万寿寺の南側に展開する「寺小路町」と「片側町」の一角に相当する場所に位置しています。すでに平成22年度には、万寿寺跡の範囲や五重塔を確認する調査を実施したところですが、五重塔の存在は確認できなかったものの、南北に貫く道路と大型の遺構や建物の柱穴などが展開する場所であることが判明していたところです。

このほど、病院建設に伴いまして約6,500m²を超える広大な面積の調査を実施することになり、「寺小路町」を中心とする町の全貌が明らかとなりました。調査区中心を南北に貫く幅14メートルの道路遺構の存在とこれに面する掘立柱建物跡群や井戸跡、さらには大小さまざまな土坑により、16世紀後半から末を中心とする町屋的な景観を解明する新たな知見を得ることができました。これにより戦国期における豊後府内の都市構造の解明に大きく寄与するものと考えております。

本書に収録された多くの史・資料が、郷土の皆様に利用され文化財に対するご理解を深めて頂くための一助となり、戦国時代の都市構造研究をはじめとした学術研究等にも幅広くご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行に至るまでご理解とご協力を賜りました医療法人至誠会 理事長 帆秋孝幸氏並びに関係各位に対しまして、心よりお礼申し上げます。

平成28年3月25日

大分市教育委員会

教育長 三浦 享二

例　　言

- 1 本書は大分市教育委員会が帆秋病院移転建設に伴って平成 24 年度及び 25 年度に実施した中世大友府内町跡第 97 次・101 次調査の発掘調査報告書である。
- 2 本報告書は「本文・表編」「図版編」の二冊からなり、本書は「本文・表編」にあたる。
- 3 調査は、医療法人至誠会 理事長 帆秋 孝幸氏からの依頼を受け、大分市教育委員会が実施している。
- 4 発掘調査は、大分市教育委員会文化財課長直信が行った。
- 5 発掘調査における遺跡の掘削及び調査記録作成業務については、大分市教育委員会文化財課の委託を受け、株式会社イビソク（業務責任者：阿比留士朗）が行った。
- 6 遺構の実測・写真撮影は、株式会社イビソク（業務責任者：阿比留士朗）が大分市教育委員会文化財課の委託を受けて行った。調査区の航空写真撮影は、同じく株式会社イビソクが行った。
- 7 遺物の 1 次整理作業（接合・注記）は、雅企画有限会社（業務責任者：阿部みゆき）が大分市教育委員会文化財課の委託を受け、実施したほか、一部を小野千恵美・佐藤麻里子・永井美香・渡辺友美・堤理加・留野優兵・千原和己・堀麗・佐藤里恵（大分市教育委員会文化財課嘱託）が行った。
- 8 報告書に掲載した出土遺物の実測・製図は、雅企画有限会社（業務責任者：阿部みゆき）が大分市教育委員会文化財課の委託を受け行ったほか、一部を永井美香・渡辺友美・堤理加・留野優兵・千原和己・堀麗・佐藤里恵・松浦知恵（大分市教育委員会文化財課嘱託）、長直信が行った。
- 9 遺構配置図・全体遺構図・個別遺構図の製図は、株式会社イビソク（業務責任者：阿比留士朗）が大分市教育委員会文化財課の委託を受け行った。また、個別遺構図の作成及び製図の一部を、雅企画有限会社（業務責任者：阿部みゆき）に委託したほか、佐藤麻里子・永井美香・渡辺友美・堤理加・留野優兵・千原和己・堀麗・佐藤里恵（大分市教育委員会文化財課嘱託）が行った。
- 10 総括図版の作成・製図作業は長直信が行った。
- 11 遺物写真撮影は、雅企画有限会社（業務責任者：阿部みゆき）が大分市教育委員会文化財課の委託を受け、デジタル写真撮影を行った。
- 12 発掘調査で収集した土壤の科学分析については、大分市教育委員会文化財課の委託を受け、株式会社古環境研究所が行った。また、金属器の一部については、九州歴史資料館に保存処理を依頼した。
- 13 本書の執筆は、以下のとおりである。

第 I 章第 1 節	高畠豊
第 II 章第 1 節・2 節	池邊千太郎
第 IV 章	長直信・堀麗
第 II 章第 3 節・第 III 章・第 VI 章	長直信
第 V 章第 1 節	株式会社古環境研究所
第 V 章第 2 節	小林啓（九州歴史資料館）
- 14 本書の編集は、渡辺友美・長直信が行った。
- 15 本報告書に掲載した写真図版及び掲載できなかった遺構・遺物写真については付属の DVD に収容している。合わせて、報告書の PDF 及び、鉄釘・土錘一覧表を収容している。詳細は DVD 内の「はじめにお読み下さい」を参照頂きたい。
- 16 出土遺物・記録資料は、大分市埋蔵文化財保存活用センター（大分市大字田原 337 番地の 5）に収蔵・保管している。
- 17 報告書の作成業務については、『大分市埋蔵文化財発掘調査報告書作成指針』に基づき実施している。

17 発掘調査及び報告書作成に際して、下記の方々にご指導・ご助言を頂いた。

小野正敏（前人間文化研究機構理事）、玉井哲雄（元国立歴史民俗博物館教授）、後藤宗俊（別府大学名誉教授）
渋谷忠章（元大分県立博物館館長）、坂井秀弥（奈良大学教授）以上は大友氏遺跡調査指導者。畠津宏幸（九州文化財総合研究所）、追川吉生（東京大学）、大澤研一（大阪歴史博物館）、加藤和歳（九州歴史資料館）、金原正明（奈良教育大学教授）、木村幾太郎（前大分市歴史資料館館長）、栗木崇（熱海市教育委員会）、古賀信幸（山口市役所総合政策部文化政策科）、小林啓（九州歴史資料館員）、佐伯弘次（九州大学）、狭川真一（元興寺文化財研究所）、佐々木健策（小田原市教育委員会）、坂本嘉弘・吉田寛・原田昭一（大分県教育庁埋蔵文化財センター）、重見高博（藍住町教育委員会）、柴田圭子（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター）、柴田昌児（愛媛大学准教授）、鈴木裕子（株式会社四門文化財事業部）、鈴木康之（広島県立大学）、関周一（宮崎大学准教授）、
田上勇一郎（福岡市埋蔵文化財センター）、高屋麻里子（筑波大学）、田中祐介（別府大学教授）、田中克子（福岡市経済観光文化局文化財部）、田中和彦（上智大学外国語学部非常勤講師）、永井正浩（堺市文化観光局文化部文化財課）、中島圭一（慶應義塾大学文学部教授）、西田宏子（公益財団法人根津美術館）、藤田明良（天理大学）、
藤沢典彦（大谷女子大学教授）、藤田若菜（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）、三辻利一（奈良教育大学名誉教授）、村木二郎（国立歴史民俗博物館准教授）、桃崎祐輔（福岡大学）、矢野和之（株式会社文化財保存計画協会）、
吉田和彦（杵築市教育委員会）

凡　　例

- 1 本書で用いた遺構記号と遺構掲載順番は、以下のとおりである。① SB：掘立柱建物跡、② SA: 柵状遺構 ③ SE: 井戸跡、④ SK: 土坑、⑤ ST: 墓・埋葬施設、⑥ SF: 道路状遺構、⑦ SD: 溝跡、溝状遺構、⑧ SJ: 土器埋設遺構、
⑨ SX: その他、⑩ SP: ピット・小穴を表している。
- 2 本書に記載される遺構番号は、以下の要領で表記される。
「97-1 SD 001」…97(調査次数)-1(調査区名) SD(遺構記号) 001(遺構番号)
なお、遺構番号の付与方法や整理報告の詳細については第Ⅲ章にて示している。
- 3 本書に用いた方位はすべて座標北 (G.N.) である。座標は、世界測地系の平面直角座標2系(北緯33°0'、
東経131°0')のX・Y座標を基点として表記している。
- 4 本書に掲載した遺構配置図（遺構の新旧関係を記録した図面）の表記は、新旧関係を実線で示し、下位の遺
構については点線で記している。また、表記上、遺構の新旧関係が不明瞭な場合は、矢印で補足している。
- 5 遺構の規模と深度の単位は原則としてメートル (m) で、遺物の法量はセンチメートル (cm) で表記している。
- 6 遺物の法量の内、器高と口径、底径と高台径は以下のとおり計測している。
器高：底部を水平に置いた状態で、最も高い部分の高さ
口径：上記の状態で、口縁端部外縁の最大径
底径：口縁部を水平に置いた状態で、底部と認識した部分の最大径
高台径：高台端部外縁の最大径
- 7 本書に掲載した遺物の実測図の表記は、以下のとおりである。
 - (1) 遺物断面が黒塗りのもの…陶器・須恵器・須恵質土器
 - (2) 遺物断面が灰色のもの…瓦器・瓦質土器・瓦類
 - (3) 遺物平面の稜線と調整の変換点…実線
 - (4) 調整が同じでその単位が分かるもの…長破線
 - (5) 軸と付着物、黒班等その範囲を示す必要があるもの…一点破線など
- 8 本文中に挙げた文献は巻末の引用文献で明示している。
- 9 第3章第2節において中世大友府内町跡から出土した土器類を中心に器種・形式分類並びに時期区分につい
て提示している。本書における各遺物の編年観及び分類名、時期呼称については、これに基づく。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに	1
第1節 調査経過	6
第2節 調査組織	7
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	7
第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	12
第3節 調査地点周辺の調査状況と課題	15
第Ⅲ章 調査・整理の方法の検討	15
第1節 調査の方法	15
第2節 報告書作成の方法	17
第3節 出土遺物の分類と編年	29
第Ⅳ章 調査概要	
第1節 調査の概要および基本層序	29
第2節 第97-1次調査区	30
第3節 第97-1E次調査区	71
第4節 第97-2次調査区	105
第5節 第97-3次調査区	115
第6節 第97次調査区確認調査及び第101次調査	131
第Ⅴ章 自然科学分析	135
第1節 中世大友府内町跡第97-1E次調査における環境考古分析	135
第2節 中世大友府内町跡出土金属製品のX線CTスキャナによる調査	147
第VI章 総括	153
第1節 出土遺物の様相	153
第2節 遺構の時期変遷	159
第3節 遺跡の主要遺構と5期の遺跡様相	167
第4節 町屋構造の比較	173
第5節 まとめ	177
参考・引用文献	179

本文挿図目次

第1図 開発計画範囲と過去の調査地点位置図 (1/2000)	2
第2図 豊後府内 天正9年 (1581)頃の景観イメージ図 (朝日新聞出版版2014を一部改変) イラスト 黒澤達矢／監修 高屋麻里子	3
第3図 調査地点周辺の調査地点と調査概要 (1/3000)	3
第4図 現地説明会資料 (表)	4
第5図 遺跡説明資料 (裏)	4
第6図 調査地周辺の遺跡と地形 (1/40000 地形図は千田1986を改変)	7
第7図 中世大友府内町跡調査地点位置図 (1/8,000)	10
第8図 府内古図 (A類) からみた調査区周辺 (玉永2013より)	10
第9図 万寿寺南側面の空闊地図 (1/1000)	13
第10図 16世紀後半の万寿寺南側の調査概要 (1/3000)	14
第11図 土師器供膳具類等分類図 (1/8・1/6)	18
第12図 土師器煮炊具類分類図 (1/15)	19
第13図 火鉢類分類図 (1/15)	20
第14図 風炉・鉢・壺分類図 (1/15)	21
第15図 撥鉢・甕・瓦燈分類図 (1/15・1/8)	22
第16図 仏具関連遺物・皿・鉢類分類図 (1/10)	23
第17図 白磁分類の追加 (1/6)	23
第18図 豊後府内土器変遷案①(1/8)	26
第19図 豊後府内土器変遷案②(1/8・1/15・1/20)	27
第20図 豊後府内土器変遷案③(瓦質土器・土師質土器)	28
第21図 第97次・101次調査区 全体基本土層模式図	30
第22図 第97-1次調査区 基本土層模式図	31
第23図 第97-1次調査区 SB掲載位置図(1/200)	32
第24図 第97-1次調査区 SE掲載位置図(1/200)	37・38
第25図 第97-1次調査区 SK掲載位置図(1/200)	43・44
第26図 第97-1次調査区 SF100内SD掲載位置図(1/200)	57
第27図 第97-1次調査区 道路状遺構 遺構配置図1 (1/200)	58
第28図 第97-1次調査区 道路状遺構 遺構配置図2 (1/200)	59
第29図 第97-1次調査区 SD・SP・ST・SJ・SX掲載位置図(1/200)	65・66
第30図 第97-1E次調査区 基本土層模式図	71
第31図 第97-1E次調査区 SB掲載位置図(1/200)	73・74
第32図 第97-1E次調査区 SE掲載位置図(1/200)	79・80
第33図 第97-1E次調査区 SK掲載位置図(1/200)	85・86
第34図 第97-1E次調査区 SD・SP・SJ・SX掲載位置図(1/200)	99・100
第35図 第97-4次調査区 全体遺構図(1/500)	101
第36図 第97-1E次調査区 兜詳細図(1/5)	104
第37図 第97-2次調査区 基本土層模式図	105
第38図 第97-2次調査区 SE・SK・ST・SP・SX掲載位置図(1/250)	107
第39図 第97-3次調査区 基本土層模式図	115
第40図 第97-3次調査区 SB掲載位置図(1/150)	117
第41図 第97-3次調査区 SE・SK・SD・SF・SJ・SP・SX掲載位置図 (1/150)	120
第42図 第97次確認調査・第101次調査区 位置図(1/1000)	132
第43図 第97次確認調査 トレンチ個別図(1/100・1/200)	133
第44図 第101次調査区 トレンチ土層図(1/30・1/60)	134
第45図 第101次調査区 遺物実測図(1/4)	134
第46図 第97-1E次調査区 SK440・SK295 遺構実測図 (1/80・1/100)	136
第47図 第97-1E次調査区における寄生虫卵ダイアグラムおよび微遺体密度	138
第48図 第97-1E次調査区 SK295における花粉ダイアグラム	138
第49図 第97-1E次調査区 SK440における花粉ダイアグラム	139
第50図 第97-1E次調査区 SK295における主要珪藻ダイアグラム	139
第51図 第97-1E次調査区 SK295における主要珪藻ダイアグラム	139
第52図 タイ産朝鮮産陶器類(1/5)	153
第53図 「T」字形鉢の類例(1/5)	153
第54図 薬箱と錢箱	153
第55図 秤閏連資料	154
第56図 軒丸瓦 型式一覧(1/8)	155
第57図 鬼瓦集成(1/8)	156
第58図 第97次調査区 周辺出土遺物(補遺)(1/2・1/8)	158
第59図 遺跡の上限に関する搬入土器(1/5)	160
第60図 町97-87-30次調査区 遺構変遷図(第1期～3期)(1/700)	161
第61図 町97-87-30次調査区 遺構変遷図(第4～5期)(1/700)	162
第62図 町97-87-30次調査区 土地利用変遷模式図	163
第63図 第97-1次調査区 5期遺構配置図 (1/200)	164
第64図 第97-1次調査区 5期遺構配置図(1/300)	165
第65図 南北道路の構造	167
第66図 道路と建物遺構の関係模式図	167
第67図 万寿寺前面の道路と町屋のイメージ図(5期)	167
第68図 廃棄土坑の形成過程と石組土坑(1/150)	168
第69図 杭痕をもつ廃棄土坑と類例(1/100)	170
第70図 「寺小路町・片側町」の町屋の構造(1/800)	172
第71図 「桜町」の町屋の構造復元案(1/600)	174
第72図 「御内町」の町屋の構造復元案 (1/600)	175
第73図 「ノコギリ町・魚之店・柳町」の町屋の構造 (1/1000)	176
第74図 「今道町」の町屋の構造復元案 (1/500)	176
第75図 五重塔とその類例	178

第 I 章 はじめに

第 1 節 調査経過

(1) 調査にいたる経過

都市計画道路庄の原佐野線は、東九州自動車道大分 IC から都市計画道路下郡中判田線間の約 6 km が地域高規格道路として大分市内の東西骨格軸を形成する幹線道路であり、平成 20 年 9 月に国道 10 号元町交差点まで開通した。元町地区と下郡地区の間は、大分川に新たな架橋を行って接続する計画になっており、これに伴って元町交差点から大分川までの事業予定地に所在した病院の移転が予定されたが、移転候補地となった事業予定地南側隣接地一帯は、周知の埋蔵文化財包蔵地「中世大友府内町跡」の範囲にあたり、古絵図にもとづく推定によれば、当該地に旧万寿寺の五重塔が推定されるなど、旧万寿寺関連の重要遺構が所在する可能性が考えられた。このため大分市教育委員会文化財課では、道路整備を所管する県駅周辺総合整備事務所および県文化課と協議を行い、平成 22 年 1 月から 3 月にかけて遺構確認調査を実施した。全 17 か所のトレーニングを設けて調査した結果、道路事業予定地南側には塔に関連すると考えられる明確な遺構は認められず、旧万寿寺南側に延びる戦国時代の南北道路を挟んで町屋が展開していることが判明した（中世大友府内町跡第 87 次調査）。

その後、平成 22 年度に病院の移転再築先が道路用地南隣に決定され、平成 23 年度には建築計画が具体化したが、大分市教育委員会文化財課では平成 21 年度の調査結果を踏まえ、できるだけ遺構保存が図れないか病院側と協議を重ね、平成 24 年度中に病院本体と地域交流センターについて発掘調査を行うこととし、附属保育所等 3 棟については、遺構への影響が少ない工法を検討することで合意した。しかし、平成 24 年 4 月 23 日に文化財保護法 93 条の届出が出された時点では、病院本体は免震設計を取り入れたプランとなっていたため、遺構への影響範囲がさらに拡大しており、さらに雨水排水渠の掘削も計画に追加されることになった。

このように、前年度中の調査計画段階よりも大幅に調査対象面積が増大したことから、文化財課では、開発対象地の遺構密度等を把握するため平成 24 年 4 月 4 日に確認調査を実施し、この結果をうけて病院本体部分を先行して発掘調査に着手することとした。平成 24 年 5 月 8 日に事業者である医療法人至誠会理事長 帆秋孝幸氏と埋蔵文化財発掘調査業務等協定書を締結し、同日付で病院本体部分の発掘調査委託契約も締結して、平成 24 年 6 月 28 日から発掘調査に着手した。その後、附属保育所等 3 棟についても協議を重ねた結果、遺構の大半を保存する設計が採用され、発掘調査の対象とならない見通しとなったため、地域交流センターおよび雨水排水渠部分について、平成 24 年 10 月 15 日付けで帆秋氏と発掘調査委託契約を締結し、平成 24 年 12 月 3 日から病院本体部分と並行して発掘調査に着手、平成 25 年 3 月 29 日に全ての調査を完了した。合計調査面積は 5792.6 m² であった。

また、確認調査結果より本調査対象外とした開発地東端の擁壁設置部分については、平成 25 年 4 月 18 日に設置工事にあわせて、中世大友府内町跡第 101 次調査として 762 m² 分の調査を行った。

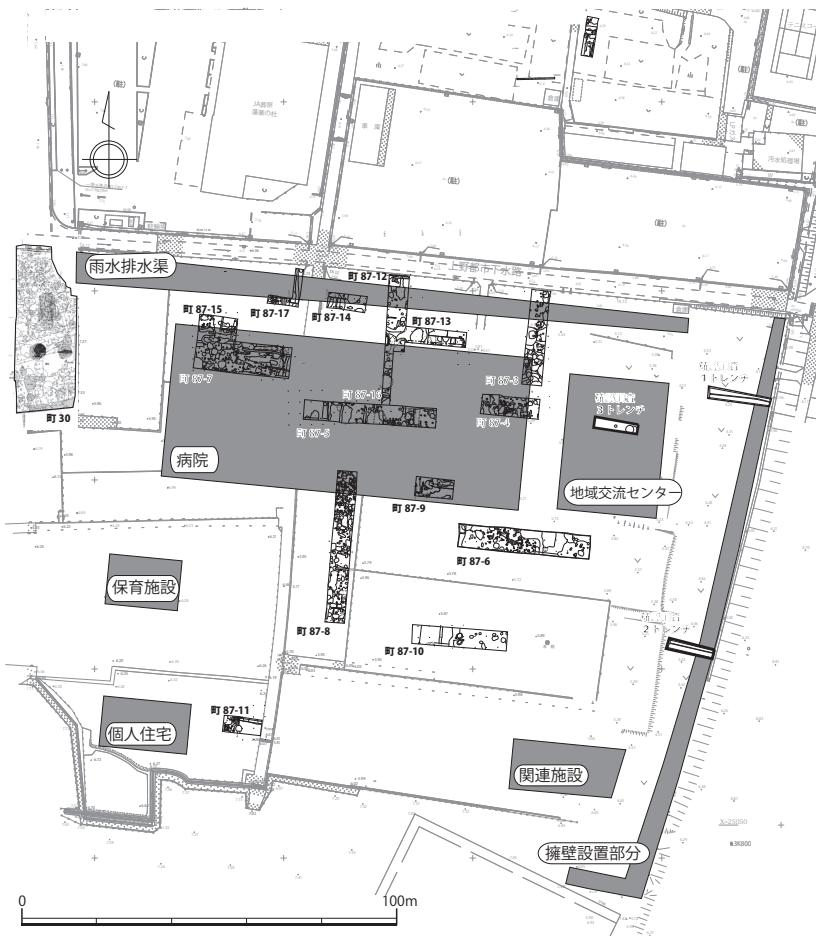
なお、遺跡の記録資料や出土遺物等の整理作業は平成 25 ~ 27 年度の 3 ヶ年にわたって実施し、報告書を平成 28 年 3 月 25 日に刊行した。（高畠豊）

(2) 調査概要

調査地点は徳治元年（1306）に創建とされる万寿寺（旧万寿寺地区）の南側にあたり、戦国時代の



写真 1 開発対象地範囲と調査前の発掘調査区遠景（南東より）



第1図 開発計画範囲と過去の調査地点位置図 (1/2000)

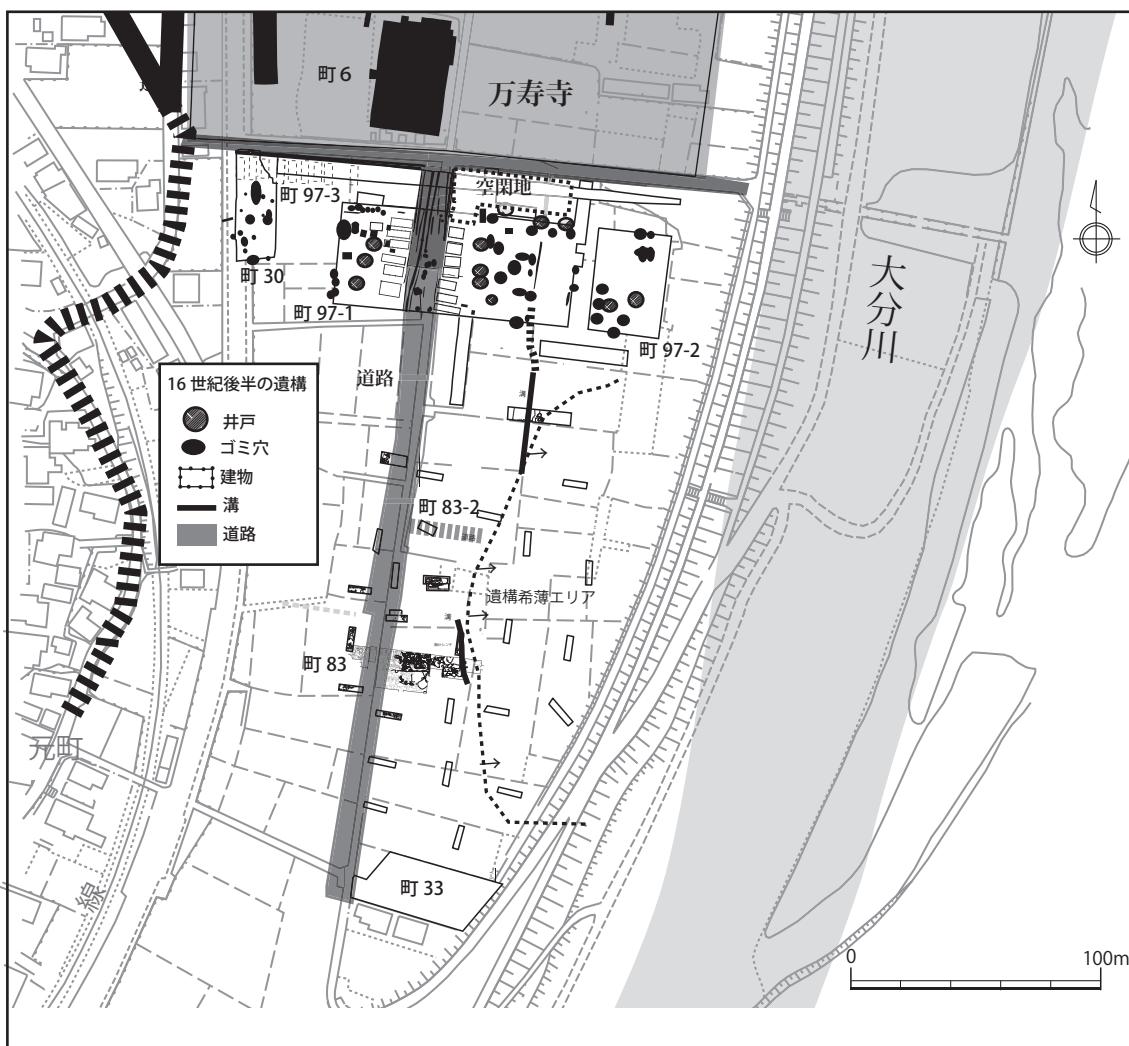


写真2 中世大友府内町跡第87次調査全景 (上が北)

豊後府内を描いた「府内古図」によれば万寿寺跡の門前に位置する「寺小路町」および「片側町」「片側町（魚ノ店）」の一角に相当すると考えられる。なお、「寺小路町」付近は、総瓦葺の“五重塔”が描かれている地点に当たる。

2009年度に五重塔の有無を確認するため、中世大友府内町跡第97次（以下、町○次と略称）とほぼ重複した地点を町87次として調査を行っている。11本程のトレントを設定し道路状遺構の存在や夥しい数の遺構を確認したほか、トレント範囲内では総瓦葺の五重塔の存在は想定しがたい点を報告した（大分市教育委員会2010b）。調査地周辺は比較的調査事例が多く、2008年度には町97次調査区より約150m南にあたる推定「今道町」付近で民間開発にともない町83次（確認調査）として27本のトレント調査を実施しその後、町83・83-2次とした本調査が行われている。調査の結果、幅7mほどの南北道路や町屋と考えられる建物遺構、大型廃棄土坑などが検出された（大分市教育委員会2010a）。また、町83次調査地点の南側で宅地開発に伴う確認調査として実施された町33次調査でも南北道路の延長部分が確認されている（大分市教育委員会2004・2006）。また、町97-3に西接する「片側町」に相当する地点で、2005年度に一般国道10号古国府拡幅事業に伴う調査として中世大友府内町跡第30次調査が行われている。万寿寺創建年代に近接する14世紀代の豊富な土師器を含む土坑や16世紀後半段階の大型廃棄土坑、片側町前面に存在した東西道路の一部が石列と共に確認されている（大

第2図 豊後府内 天正9年（1581）頃の景観イメージ図

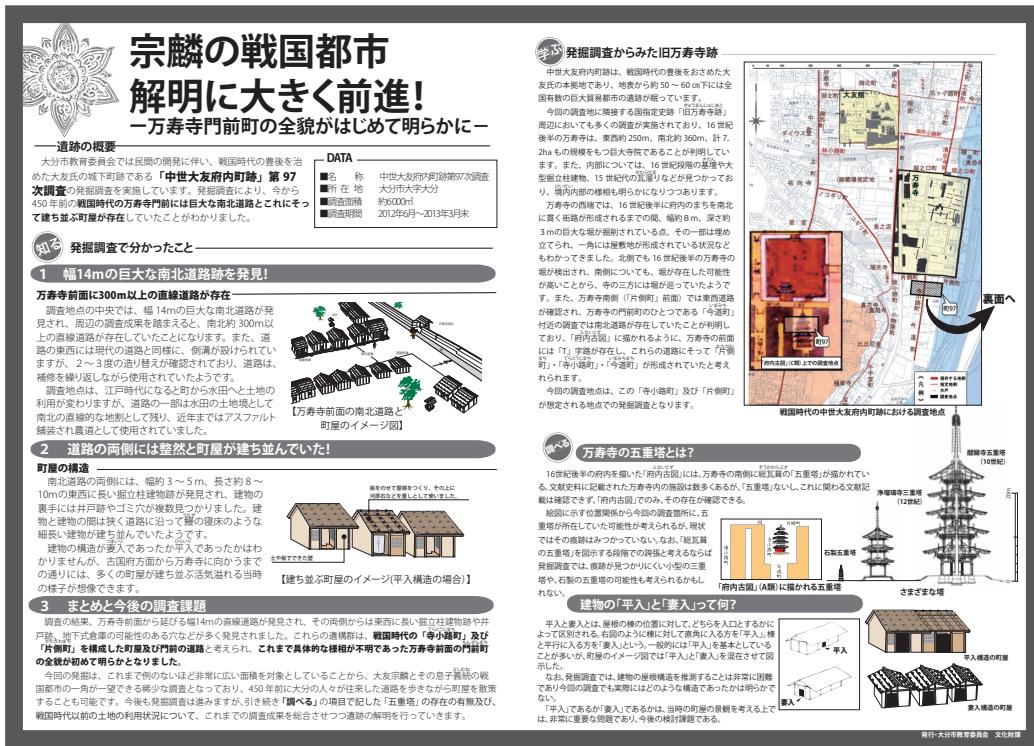


第3図 調査地点周辺の調査地点と調査概要 (1/3000)

分県教育庁埋蔵文化財センター 2010)。

調査の結果、14世紀後半から16世紀後半までの夥しい数の遺構が確認され、万寿寺南面の土地利用について具体的な様相を確認することができた。とくに、16世紀後半段階には東西道路・南北道路に面して掘立柱建物が建ち並ぶ状況や井戸跡、廃棄土坑など豊後府内の町屋景観を復元する上で、極めて重要な所見をえることができた（第2・3図）。

なお、約9ヶ月間の調査期間中に県内外の考古学・文献史学・建築史学の研究者20名以上の方々が来訪され
ご指導を賜った他（例言参照）、市内中学生の職場体験（27名）、一般市民の体験発掘（176名）、各種団体



第4図 現地説明会資料（表）



第5図 遺跡説明資料（裏）



写真3 大在中学校・王子中学校職場体験風景（2012年9月13日）



写真4 大分県立聾学校 発掘体験風景（2012年9月26日）



写真5 体験発掘 遺跡説明風景（2012年11月23日）



写真6 発掘体験風景

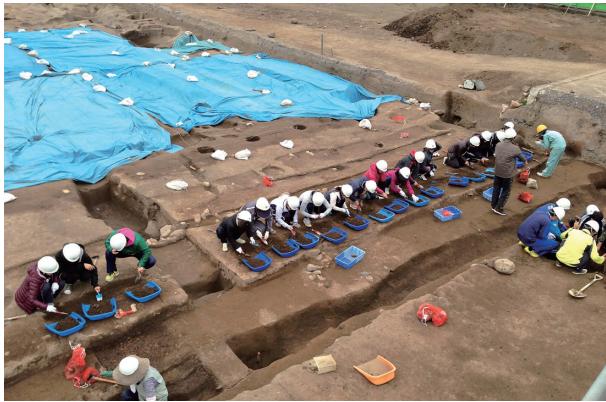


写真7 大分県教職員初任者研修 発掘体験風景（2012年11月22日）



写真8 現地説明会 遺物展示風景（2012年10月6日）

による現場見学（183名）、現場説明会による見学者（約150名）と、計550人を超える方々が来訪した（写真3～8）。また、現場後半の2013年1月には地元ケーブルテレビによる調査状況の取材及び放映（2013年2月2日・29日）が行われ、遺跡の状況が広く周知された。（長直信）

第2節 調査組織

発掘調査及び整理作業体制（平成24年度～平成27年度）

調査主体 大分市教育委員会 教育長 足立一馬（～平成26年度） 三浦享二（平成27年度～）

事務局 大分市教育委員会

〈平成24年度〉（確認調査・本調査[97次調査]）

文化財課 課長 福田 誠一

主幹 坪根 伸也

特別顧問 玉永 光洋

埋蔵文化財担当班

専門員（班長）高畠 豊

専門員 塩地 潤一

主査 佐藤 道文

主任長 直信（調査担当） 松浦 憲治 朝川 貴俊

嘱託職員 小野千恵美 松木 晴美 倉増美智代 佐藤 良子（～平成24年8月）

永井 美香 佐藤麻理子 小野 知恵 敷島加代子

〈平成25年度〉（本調査[101次調査]・整理）

文化財課 課長 塔鼻 光司

参考事 塔鼻 光司

参考事補 塔鼻 光司

特別顧問 玉永 光洋

大分市歴史資料館

歴史資料館館長 武富 雅宣

顧問 讀岐 和夫

大分市埋蔵文化財保存活用センター 埋蔵文化財担当班

参考事補（班長）池邊千太郎

専門員 塩地 潤一

主査 佐藤 道文

主任長 直信（整理担当）

主任事 松浦 憲治

嘱託職員 小野千恵美（整理担当） 松木 晴美 倉増美智代 佐藤 真理子（整理担当）

永井 美香 小野 綾夏 敷島加代子

〈平成26年度〉（整理）

文化財課 課長 塔鼻 光司

参考事 神田 洋

特別顧問 玉永 光洋

大分市歴史資料館

館長 武富 雅宣

副館長 久多羅岐明

顧問 讀岐 和夫

大分市埋蔵文化財保存活用センター 埋蔵文化財担当班

参考事補（班長）池邊千太郎

専門員 塩地 潤一

主査 佐藤 道文

主任長 直信（整理担当）

主任事 松浦 憲治

嘱託職員 佐藤麻理子（整理担当） 永井 美香 小野 綾夏 小野 知恵

敷島加代子（～平成26年10月） 渡辺 友美

〈平成27年度〉（整理・報告書刊行）

文化財課 課長 塔鼻 光司

参考事 長野 清尊

特別顧問 玉永 光洋

大分市歴史資料館

館長 武富 雅宣

副館長 安東 俊昭

顧問 讀岐 和夫

大分市埋蔵文化財保存活用センター 埋蔵文化財担当班

参考事補（班長）池邊千太郎

参考事補 河野 史郎（～平成24年9月）

主査 吉野 晃次

主事 松浦 憲治

事務員 小野 綾夏

嘱託職員 永井 美香（整理担当） 渡辺 友美（整理担当） 堀 麗（整理担当） 堤 理加

留野 優兵 千原 和己 堀 麗（整理担当） 佐藤 里恵

臨時職員 伊東 美惠

史跡整備担当班

参考事補（班長）斎藤 新吾

主任長 直信（整理担当）